

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

選択式 (用語・地名の選択, 統計判定), 記述式, 論述式, 描図

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (易化・**変化なし**・難化)

大問4題, 選択式・記述式の解答個数 (21) は昨年 (27) に比べ減少した。論述式では, 字数指定のあるものが12問 (昨年は6問), 総字数は440字 (昨年は360字), 字数指定のない短文 (1行分20~30字程度の解答枠) が5問 (昨年は7問) で, 全体の字数は昨年と同程度である。大問ごとでは, 字数指定のあるものが, Iに4問 (130字), IIに3問 (110字), IIIに2問 (80字), IVに3問 (120字) あり, 字数指定のないものはIIで2問, IIIで3問となっている。1問当たりの字数は最短20字, 最長50字で, 昨年より短く, 30字以内のものも4問あった。地形図の読図, およびII~IVとも昨年とほぼ同様の難易である。

出題の特徴

本学の大問は, 自然 (または地図), 産業, 社会および地誌の4分野から構成されることが多いが, 本年度はIが地形図の読図, IIが産業, III・IV社会分野からで, 地誌からの出題はなかった。近年は, 図表の読み取りを求める設問が多く, 本年度もIで地形図, II~IVで写真, グラフまたは表が使用された。

その他トピックス

IIで2011年以来となる描図問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式 論述式	地形図の読図	岐阜県安八郡 (揖斐川・長良川流域の沖積平野)。論述は(1)自然堤防に集落が立地する要因, (3)水田の防災機能, (4)新田集落の成立経緯, (5)後背湿地への集落立地。	標準
II	選択式 記述式 論述式	農業	A灌漑農業。カレーズ, センターピボットの衛星写真。論述は(2)センターピボットの仕組みと役割, (3)写真の2地域に共通する自然条件。(1)でカレーズ断面の描図。B地中海周辺の農業。地図, オリーブ生産統計。論述は(4)ナイル川氾濫の理由, (5)オリーブ栽培の自然条件, (6)北アフリカにおける小麦栽培地域。	標準
III	選択式 記述式 論述式	就業構造	地図, 産業別人口構成 (グラフ), 高齢者就業率と若年失業率 (グラフ)。論述は, (3)中国の人口移動, (4)日本の高齢者就業率が高い理由, (5)ヨーロッパ諸国の高齢者就業率・若年失業率の関係, (6)近年のEUにおける労働力移動。(1)はラオスなどグラフにない国は地図にもないとわかればすぐ判定できる。	標準
IV	選択式 記述式 論述式	食料・生活環境・住居	1人あたり食料供給量 (グラフ), 安全な水利用率と乳幼児死亡率 (表)。統計判定のほか, 論述は, (3)インドネシアで肉供給が少ない理由, (5)安全な水利用者割合上昇の理由, (6)乳幼児死亡率が高い要因, (7)高床式住居の自然条件。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を利用した基本知識 (地名や用語) の蓄積は当然だが, 論述式への対応として, 基本的な地理用語の語義, 自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて, 簡潔に (20字~100字程度) ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。加えて, 地形図や統計図表の読み取りなど地理的スキルや思考力を試す出題が多く, 難問もあるので, 日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。なお, 「産業構造とその変化」や「都市・人口・交通」のように出題頻度の非常に高いテーマもある。過去問を研究して確かめておこう。